

平成二十八年度宮城県多賀城高等学校入学式 式辞

ただ今入学を許可された二七九名の新入生の皆さん、入学おめでとう。保護者の皆さま、お子さまのご入学、誠におめでとうございます。

今年は桜の開花が例年より早く、入学式を華やかにしてくれました。まさに春爛漫のこのよき日に、多賀城市議会議員 江口正夫様をはじめ、多数のご来賓並びに保護者の皆さまのご臨席のもと、平成二十八年度入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしく、心より感謝と御礼を申し上げます。また、新入生の皆さんのブレザーに付いている校章は、同窓会から皆さんへの入学祝いとして贈られたものです。同窓会の皆さんに感謝申し上げますとともに、鵬が大空を翔ようとする姿を示している校章を大切にしてください。

さて、新入生の皆さんはどのような目標をもって、多賀城高校の門をくぐり、今日この場に臨んでいるのでしょうか。皆さんは合格という栄冠を勝ち取り、たった今高校生になりました。今日からは真に多賀城高校の生徒となるよう、一人ひとり目標を掲げてください。今まで漠然と思い描いていた将来の夢を志にまで高められるよう、学びたい教科科目や取り組みたい部活動について、具体的な目標をもってこれからの三年間を過ごしてください。

本校の教育目標は「さとく、ゆたかに、たくましく」という三つの言葉に表されています。「さとく」とは知性の尊重を意味し、自己実現を図るとともに調和のとれた教養を身につけなさいということ、「ゆたかに」とは人格の尊重を意味し、自分や他者を愛し社会に貢献できる誠実な人となるよう努めなさいということ、「たくましく」とは心身の健康を意味し、困難にあってもくじけない強い気持ちと体力を身につけなさいということです。最初が「さとく」です。高校生の本分は学ぶことだからです。学ぶとは、授業を受けることだけではありません。家庭学習は当然ですが学校行事を通じた学びもありますし、部活動を通じた学びもあります。そのため、本校では「授業第一」を掲げるとともに「文武両立」を目指します。皆さんの先輩たちは、高校総体や各種コンクールに最後まで精一杯取り組みながら、進路目標を早期に設定して学習に励み、八割の人が現役で国公立大学や私立大学に進学しています。

皆さんを取り巻く社会は急速にグローバル化が進み、答えのない問いに挑み続ける力が求められています。将来、どのような仕事に就いても自ら納得する答えを導きながら新しい道を切り開いていくこととなります。そこで、多賀城高校の生徒となるために、今日から皆さんが取り組むべきことを二つお話しします。一つ目は、自分を律するということです。これまでの生活を振り返ってみてください。人任せ、親任せの生活をしていませんか。何かをしてもらうのを待っていてはだめです。自分から行動することです。誰かのために周囲の人のために自分に何ができるのかを考えてください。そして、自分の生活をコントロールしてください。

二つ目はよき友を得るよう努力してください。親友とは心の友であり真実の友です。高

校時代に得た友人は一生の宝となります。ホームルームでの活動を通じて、あるいは部活動を通じて、学校行事を通じて様々な出会いがあります。自分の利益を優先することなく、相手のために何かを成し得たときに、あるいは失敗しても人のせいにすることなく仲間を信じることで心の絆が結ばれます。

震災から五年が経過しました。皆さんの中には、大切な家族を亡くした人や辛い思いをしながら暮らしている人がいます。一人ひとり状況は違っても、多賀城高校は被災地にある高校であり、防災教育に力を入れています。また、災害科学科は全国の防災教育のパイロットスクールとしての役割があります。一年生のカリキュラムには、普通科も災害科学科も一緒に学ぶ「くらしと安全」や「情報と災害」があります。どちらの学科の生徒も、掛け替えない自分を大切にするとともに、互いに協力して三年間の高校生活を充実させるよう期待し、式辞とします。

平成二十八年四月八日

宮城県多賀城高等学校長 小泉 博